

わがまち自慢

村長室から



青森県六ヶ所村 戸田 衛 村長



『共生』で誕生した村の特産品

ご承知のように、六ヶ所村は、原子燃料サイクル施設をはじめ、国際核融合エネルギー研究センターや国家石油備蓄基地、また、風力発電や太陽光発電など、エネルギー関連施設が集積している地域です。同時に、開拓の歴史もあります。

寒冷な気候で、移住するには条件が悪いことから、当時は、畑の開拓をしたものの、「やませ（夏に吹く冷たく湿った北東の風）」の影響で、いくら努力しても生産量が少なく、開拓者の方々のご苦労は大変なものでした。しかし、根

柄ともいえます。そうした気質が、サイクル施設の立地や、新しい科学技術、文化的な活動など、着実に根付く要因になったものと考えておられます。

六ヶ所村の特産品に、長芋焼酎『六趣』があります。実は、この特産品は、開拓者精神が根付く土地に最先端のエネルギー関連施設が集積したからこそ、できたものなのです。

農協には売れない、たくさん規格外の長芋を「捨てるのがもったいない」ということから始まりました。当時、村で「まちづくり」が議論されていた中で、サイクル施設に向かわれていた九州電力の方からの「長芋焼酎を開発してみたらどうか」との話がきっかけとなり、始まりました。

そこで宮崎県高鍋町の酒造会社に開発をお願いしましたが、製品の完成後、人気が出てくるまでに7～8年くらいかかりました。その後、知名度が全国的となり、品薄状態となったことから、9年前に村内に工場を建設して、生産することにしました。技術的なものは無償で委譲していただき、いろいろと指導をいただきました。今では、六ヶ所村といえは『六趣』と言われるまでに有名になりました。規格外の長芋の活用で農家の方々に大変喜ばれております。このように、「六趣」は共生事

業の成功事例と想っています。色々な会社からの出向者が勤務しているサイクル施設の職員の情報や発想は、村にとって、ひとつの「宝」となっています。

文化面でも、村民とサイクル施

思い切った施策で第一次産業の活性化を

今まで六ヶ所村は、最先端技術の施設を誘致し、産業構造の高度化を目指してきたことは確かです。しかし一方で、第一次産業で一生懸命頑張っている人がいます。そこを大事にしたい、今まで培ってきた農林水産業などの灯を、私は消して欲しくないと思っています。

六ヶ所村は寒冷地のため、農業は根菜類が中心で、特に長芋は人気の特産品です。青森県は国内でも有数の生産県です。ただ、長芋は連作障害がある農作物のため、畑の確保や遊休農地の活用を行いながら、生産量の維持に力を注いでまいりました。

昨年度、電源立地地域対策交付金を活用し、一定期間鮮度を保つための予冷庫などの施設として、長芋貯蔵施設を整備しました。これにより、品薄時などの需給調整ができるようになりました。今後は、先端技術を応用した大規模な野菜工場の設置も考えています。今後の一番の課題は、「担い手」不足です。就農支援には受け皿整

設に勤務する方々が、「尾駈の牧歴史研究会」をはじめとしたサークル活動を盛んに行っており、江戸時代の紀行家、菅江真澄の歴史書物などから、尾駈の牧の歴史やロマンをひも解いています。

備が必要ですが、居住環境の整備、農業ヘルパーの人件費の助成等を六ヶ所村で行っています。今、若い人が農業などの第一次産業に目を向けつつあります。村が一步進んだ形で、農業大学などに出向き、六ヶ所村の魅力を伝え、受け皿を確保するように、力を入れていきます。

また、六次産業化は、若い人だけでなくも可能であると考えております。高齢化、後継者問題などで悩まれている方々に、今まで培ってきた農業分野での技術を活かしていただくため、特産品の販売所を計画しています。来年完成の予定ですが、そば打ちの実演や、農産物などの特産品を扱う専門的な施設を考えています。主力商品には、ブルーベリージャム、瓶詰めウニ製品、アワビが目玉商品になると思います。商品の知名度をさらに上げる工夫をするなど、ソフト面で仕組みづくりを行ってまいりたいと思います。一方、データセンターの建設も進められています。その特徴は、



平成18年に建設した『六趣』の工場



地域ブランドに成長した『六趣』

菜類が適しているというところで、いつしか長芋が広く作付けされるようになります。青森県の旧南部藩の地域の人は、物事に地道に取り組み気質をもっており、粘り強い開拓者精神が根付く土地



平成26年に開園した「幼保連携認定こども園」



0～6歳児までが入園している「こども園」



平成26年度の小学生海外体験学習（オーストラリア）



村に滞在する外国人との交流



医療・福祉・老人介護が一体化した「六ヶ所村医療センター」

「住んでみたい村」と思われるような施策を発信

六ヶ所村には多くの外国人の方々が滞在、居住しています。I T E R計画への『幅広いアプローチ活動』と次世代核融合炉（原型炉）に関する先進的な研究を進める「国際核融合エネルギー研究センター」などに勤める方やご家族のお子様のために国際学校を造っています。六ヶ所村では、これからますます進む国際化に対応できるよう、小中学生の海外体験学習や、高校生のホームステイなどを実施しています。また、ドイツ、韓国の国際交流員（C I R）2名、外国語指導助手（A L T）2名の計4名を配置しています。

冬に降った雪を雪室（雪を利用した天然の冷蔵庫）に貯蔵し、その冷気を使ってコンピュータの熱を冷却するシステムです。雪国の特徴を活かしたデータセンターは、世界でも希だと聞いております。また、さらなる交流人口増加のため、観光の基盤となるホテルや交通アクセスの整備も検討しております。今後は、中高生の修学旅行をターゲットに考えており、原子力エネルギー、自然エネルギー、将来の核融合エネルギーなどに、興味を持っていただきたいと思っています。

また、重点施策のひとつとして、「健康づくり」にも力を入れていきます。体が健康でなければ、何事もできないとの思いから、公約として「健診受診率青森県一」を掲げています。

昨年8月、六ヶ所村医療センターを開業しましたが、第一次産業に従事する若い方々の健診受診率が低いことが分かったため、健康診断を無料にするなどの対策を講じてきました。これらの充実を図るための医療センター開設にあたり、老健施設や健康診断、保健相談センターも含め、医療・福祉・健康等の分野を一体化させました。また、容易なことではありませんが、若い方の定住のため、産婦人科と小児科の専門医の確保にも

努力したいと考えております。定住化促進のためには、受け皿となる様々な生活環境も整える必要があります。まずは『尾駮レイクタウン北地区』整備により、居住地を確保しました。次に医療と教育の充実のため、昨年、給食センターを移転・改築したほか、子育て支援として小中学生の給食を無料化しました。さらには、健康診断や、中高高校までの医療費を無料にしております。スポーツ施設の整備改修もある意味、定住化対策のひとつです。

次世代エネルギーの発信基地として

六ヶ所村は、日本の重要なエネルギーを供給する地域としての使命を与えられていると思っております。特に原子燃料サイクル施設は、エネルギーの安定供給を図り、国民の経済とくらしを守る重要な役割を担っていると自負しています。

また、国際核融合エネルギー研究センターは核融合の研究拠点として、国際社会へ貢献できるものと思っております。六ヶ所村は、人類の恒久的な未来のエネルギーとなるI T E R計画の成功という使命達成に向けた支援をするために、各国の研究者が住みよい環境づくりに努めています。

また、自然エネルギーと科学エネルギーの調和した街づくりを進めており、風力発電や太陽光発電の立地にも力を注いでいます。こうした取り組みが評価され、資源エネルギー庁から、次世代エネルギーパークの認定を受け、たくさ

んの見学者を受け入れています。さらに、新街区の尾駮レイクタウン北地区の歩道に地熱エネルギーを活用した融雪システムを設置したり、民間でスマートグリッド住宅を建設するなど、多様なエネルギーの導入が進んでいます。このような六ヶ所村を多くの方に訪れていただき、エネルギーについて理解を深めてもらえるよう努力したいと思っております。（談）



原子燃料サイクル施設のひとつ、再処理工場